広報活動をとりまく変化

広報活動の拡充の一環として、平成10年には市公式ホームページを立ちあげたことで、市の新着情報は、インターネットで知ることができる環境となりました。また、ページ数にかぎりがあることから広報紙では難しい「多言語化」にも、平成28年9月より対応可能にしています。

さらに近年は、家庭にパソコンやスマートフォンが普及し、「知りたいことだけを素早く検索する」方向に読者の感覚が変化してきました。

平成30年度の「市民意識調査」（平成30年4月実施。18歳以上の市民の方、無作為抽出2,500人対象のアンケート調査）では『広報たかはま』の利用度や発行回数などについて質問をしたところ、現状は「70歳代以上」「女性」が、まちの情報源として『広報たかはま』をもっとも活用している状況がよみとれました。ただ、70歳代以上でも情報源は「ホームページ」と回答した方もあり、時代を反映しています。

30歳代以下の方の情報源は、スピード感のあるインターネットへ移行しているようです。おそらく、数年後には、「広報紙も読むけれど、知りたいことはホームページで検索する」という方がさらに増えることが予想されます。

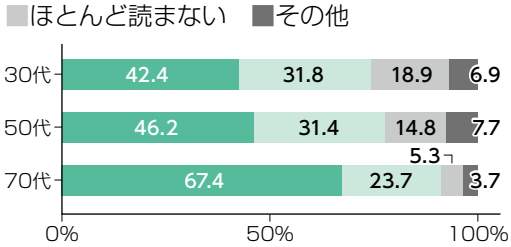
ながく続く『広報たかはま』は、ホームページなどと連動しつつ、紙媒体である特性をいかした内容のおしらせや情報を届けるというように、役割を見直す時期が来たのかもしれません。

市では、「平成」が終わりを告げる区切りの年に際し、新しい広報活動の姿を模索するとともに『広報たかはま』の月1回発行への変更を検討していきます。

平成30年度 市民意識調査

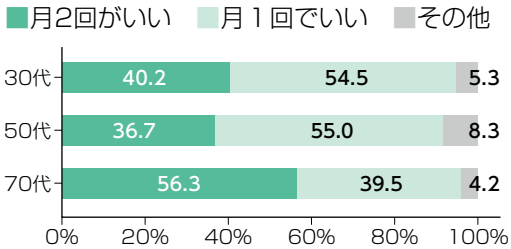
10～70歳代、全回答者940人のうち、ここでは30・50・70代の動向をピックアップしています。

あなたは『広報たかはま』を読んでいますか?



※「その他」は「読んだことがない」と「無回答」

あなたは『広報たかはま』の発行回数をどう思いますか?



※「その他」は「広報は必要ない」と「無回答」

- 30代、50代では、毎号読む方は約42～46%であり、「月1回の発行でいい」とした方は約55%で半数を超える。
- 70代以上は毎号読むという方が多いものの、「月1回の発行でいい」と考える方も40%近い。

▲最近の数年間も「たかはま」の文字をいろいろとアレンジしてきました。

▲裏表紙の「撮っておきのたかはま」は100回まで連載しました。

第45回　タカハマ！まるごと宝箱

「高浜の平成30年間を振り返る」

平成の30年間にわたる、高浜市のまちなみやイベントなどの移り変わりを、『広報たかはま』の写真なども使い、皆さんの視点から見つめ直し語り合ってみませんか?

とき　2月16日(土)　午前10時～正午
ところ　かわら美術館1階　ホール

問合せ先　いきいき文化スポーツグループ
☎52-1111（内線300）

この記事に関するご感想などをお寄せください。
Eメール　seisaku@city.takahama.lg.jp